

表1 共通参照レベル：全体的な尺度

熟達した言語使用者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。 いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確でしっかりとした構成の詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解することができる。 お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

吉島・大橋（訳・編）2004：p. 25より © Goethe-Institut Tokyo

言語使用の横の広がりとは、*The Threshold Level*には、はっきりと取り入れられていなかったが学習者のコミュニケーション能力を図る際には大切な分野である。例えば、ホテルで暖房が効かなかった際にいろいろな対応の仕方が考えられる。「暖房が壊れました。直して下さい」とも、「すみませんが、ちょっと寒いのですが、暖房の調子を見ていただけませんか。それが無理なら、部屋を替えていただくことはできるでしょうか。」と言うこともできる。最初の言い方は言語能力レベルが低く、後者はレベルが高いと、従来は考えられがちだった。しかし、目標達成のためにあえて単刀直入な前者の言い方を選んだほうが効果的な場合もあるだろう。それは、言語能力だけではなく、むしろ言語運用の適切さの問題である。与えられた場面、状況下で、特定の相手に対して適切な言語使用ができるか、という社会言語能力と呼んでいる観点である。CEFでは横の広がりとして認識し、言語活動の領域 (domain) を、公的 (public)、私的 (private)、職業的 (occupational)、教育的 (education)